

RT JOURNAL

CSR、始動。

Re-Teckは事業拡大だけでなく、社会貢献にも取り組みます。



CSRを実施することで、社会から選ばれる企業に。

企業が持続的に成長していくためには、利益を優先させるだけでなく、ステークホルダーとの関係を重視しながら、社会に対する責任や貢献(社会的公正性を保つことや、環境対策を施すことなど)に配慮する必要があります。企業が未来永続的に存在していくためには、企業自ら社会の一員として、まずは「社会そのもの」が永続的でなくてはなりません。つまり、企業が自分自身の利益のみを追求して、社会的に持続可能な発展に反する行為を行うことは社会からの信頼を得られず、企業の永続的發展ができないのです。

CSR方針

私たちはRSCMで生み出した価値を社会へ還元し、循環型社会へ貢献します。

Re-Teck は 3R^{※1} を推進することで限りある資源を有効に活用し、持続可能な社会へ向けて貢献していきます。電子機器には多くの再生可能な電子部品が含まれています。お客様から回収した機器の資産価値を最適化し、さらに廃棄による土壌汚染や大気汚染などの環境負荷を低減し、地球環境に貢献したビジネスを展開していますが、それだけでなく、皆さんの普段の行動からも CSR を意識して取り組んでいただくために、CSR 方針と行動指針を策定しました。

※1 3R : Reduce (減らす)、Reuse (再利用)、Recycle (再資源化) の 3 つの「R」の総称

行動指針

- 従業員自ら3Rを推進し 環境に配慮した行動を意識します
- 社内備品は積極的にリユース製品を利用します
- 情報開示を適切に行い 責任ある対応をします

設立5年、Re-Teck は新しいステージへ進みます。

今期、当社は予算・目標策定、社内規律・規則の運用促進を行っています。今後は CSR (= 社会的「責任」) の基本であるコンプライアンス(法令順守)の徹底、ISO の運用促進もしていきたいと思っています。当社にとって CSR の最重点課題は、社会的「責任」への意識高揚です。社会対応力の向上、社会貢献の実施、社内規範・規則をきちんと守る強い組織づくりが急務であり、その為にはすべての社員が CSR の基礎知識を理解することが不可欠です。CSR を推進することで意識改革につながり、さらには CS (顧客満足度) にもプラスの影響を与えます。CSR は自分で創るもの。皆さん 1 人ひとり、CSR とは何かを考え、毎日の仕事の中でも実践してください。そして「個」の力を One Team 力に集約し、単に社会的「責任」の遂行ではなく、企業の「価値」向上へつなげられる活動、Re-Teck Japan 独自の「CSR Beyond !」を推進していきましょう。



代表取締役
須藤 直以

CSRをきっかけに、
新しいお客様とのつながりも創出。



今後、CSRではNPOやNGOをはじめ、様々な団体と連携して個人所有の携帯電話を回収し、寄付をしていく予定です。その新しい関わりの中でリーテックの良さをアピールし、法人営業にも繋げていきたいと思っています。

「私たちのメダルプロジェクト」がスタート。

不要になった小型家電を社内回収し、オリンピックのメダルプロジェクトに寄付します。
目標台数は「五輪」に絡めて1人5台！全拠点合わせて250台の回収を目指します！

期間:2017年12月1日～2018年6月30日

場所:各サイトの回収BOX

電話機・ファクシミリ・携帯電話・PHS・タブレット・カーナビ・ラジカセ・デジタルチューナー・デジカメ・ビデオカメラ・DVDプレイヤー・ステレオ・パソコン・USBメモリメモリーカード・ハードディスク・プリンター・ディスプレイ電子書籍・電動ドリル・電卓・電子辞書・電子体温計・ヘルスメーター・電動式吸入器・フィルムカメラ・炊飯器扇風機・除湿器・電気アイロン・ドライヤー・電気カミソリ電動歯ブラシ・マッサージ機・電気芝刈り機・照明器具電子時計・電子楽器・プラグ・充電器ケーブル

※持ち運び可能な大きさであるもの

各サイトのオリジナル回収BOX



オリンピック社内スローガンが決定！

メダル！ それはアスリートの**汗と涙の結晶！**
私たちが作ります！



6月に社内募集したオリンピックプロジェクトのスローガン。たくさんの応募の中より選ばれた3名の方にスローガンに対する熱い思いとプロジェクトへの意気込みをお伺いしました。

僕たちが取り組むのは当たり前。

自分の提案したスローガンが当選したと聞いて、驚きました。実は、今回選ばれたアイデアは家族と一緒に考えた内容であったため、家に帰ってすぐに嫁へ報告すると、一緒に喜んでくれました。業務で携帯電話をリユースしていることもあり、オリンピックのメダルプロジェクトに積極的に取り組むことは当たり前だと思っています。そのため、スローガンも10個以上応募しました。小型家電の寄付目標は、自分の体重分。これを機会にリサイクルの輪を広げていきたいです。



守口センター 逢坂 保さん

全社一丸となって取り組みたい。

この企画が発表されたとき、取り組むのであれば「全社で取り組みたい」と思いました。だから『私たちが作ります』というスローガンが選ばれてとても嬉しく思っています。自分たちが持ち寄ったものがメダルになると思うと、オリンピックの見方も変わってくると思うし、我々自身の仕事に対する思いも変わる。身の回りの電子機器には価値のある金属がたくさん潜んでいます。この企画を通して、回収の大切さを改めてみんなに感じて欲しい。そして、オリンピックが終わっても不要な家電をぜひセンターに持ってきて欲しいと思います。



東京RSCセンター 山下 信雄さん

不要家電は手元にないけれど、全面協力したい。

アスリートはみんな汗と涙を流しているけれど、その中でもオリンピックという大舞台で力を発揮できた人だけがメダルを手にする。そのメダル作りに関わりたいと思う気持ちを込めてスローガンを提案しました。携帯電話の買い替え時には必ずキャリアへ返却をしたり、普段から断捨離を心がけているので、手元に不要な家電はほとんどありませんが、友人や知人にも声をかけて必ず目標の5個は寄付をします。そして、この企画に全面協力します。



東京本社 高橋 康人さん

編集後記



RT JOURNAL を最後までお読みいただきまして有難うございます。無事に発行できてホッとしています。今後もなるべく多くの方に登場してもらいながら、様々なCSRの取組みをご紹介していければと思っています。取材依頼が届いた際は、ぜひご協力のほど宜しくお願いいたします。CSR 小野真菜